

## 第 2 号議案

### 令和 6 年度事業計画書(案)及び

### 収支予算書(案)の承認について

このことについて、別紙のとおり総会の議決を求めます。

令和 6 年 5 月 28 日提出

一般社団法人 読谷村観光協会

会長 比 嘉 兼 作

# 令和 6 年度事業計画書(案)

令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

一般社団法人 読谷村観光協会

## 基本方針

令和 5 年度は、流行病であったコロナウイルスは終息に向かい、沖縄の観光業には賑わいの声が多く聞こえるようになった 1 年となり、沖縄だけではなく日本各地で観光業を営んでいる方々の日常が戻ってきたことを実感する年となりました。

しかしながら、いまだコロナの余波として観光業に従事する人材が不足しており、コロナ禍以前に戻ったとは言い難く、観光業に従事する人材不足や提供するサービスの質の維持・向上など課題は今もなおコロナ禍の深い傷跡となっております。

未曾有の感染症を経て観光先に求める要素として、「安心」が加わった今日、様々な課題を解決すべく便利なサービスや機能が世に出てきている中、時代の流行に遅れを取らないよう尽力し、今後も地域に眠る観光資源を磨き上げ、より一層地域の魅力を高め集客に努めて参ります。

令和 6 年度の読谷村観光協会の運営におきましては、引き続き会員を中心とした委員会活動をより活発化させ会員事業所とともに行政・地域と連携しながら、協会理念である「会員さんの幸せ」×「お客様の喜び」×「地域の活性化」を目指した活動を引き続き行って参ります。

主な事業内容としては地域と連携し村民・県民をはじめ観光客の獲得を目指したイベント「よみマルシェ」を定期開催し地域の活性化を図っていきます。中日ドラゴンズ 2 軍をはじめとしたプロスポーツキャンプの受け入れ、読谷コスモス畑などによる集客に繋がるコンテンツの活用やイベントの充実化、読谷村の風土を感じられる「よみたんむら巡い」、地域資源を活用した「読谷村らしい」独自性を出した観光コンテンツづくりと磨き上げ、世界遺産 座喜味城跡「御城印」を起点とした新たなターゲット層へ向けた誘客の取組（県内の城跡とコラボした観光周遊プランやガイドコースの作成）、県内外の物産展への出店をはじめとした読谷村の観光と物産の PR を引き続き積極的に行いつつ、当協会の SNS を活用し集客や情報提供の強化に尽力します。

以上のような基本方針に基づき、次項のコンセプトに即した事業を実施いたします。

## ◆ Concept 7 (7つの方針)

### 1. 読谷村らしい地域資源の保全・利活用

- (1) 美化活動(チビチリガマ清掃、ビーチクリーンなど)を通じた地域貢献、読谷村の原風景の保全、恒久平和の発信
- (2) “読谷村の原風景”を守りながら、観光地として魅力ある風景づくりとPRの推進(花いっぱい運動など)
- (3) 自然や農業・漁業・文化体験ツアーメニューの推進
- (4) 世界遺産座喜味城跡をはじめ、やちむん、花織などの伝統工芸の活用・魅力の発信

### 2. SDGsの視点を取り入れた持続可能な観光の展開

- (1) よみたん型ツーリズムの継承・発展の推進
- (2) 「読谷村におけるSDGsの取組および目標」への参加、会員向けSDGs講習の開催
- (3) 村が検討している村内周遊・回遊、滞在型観光へ向けたアクセス、二次交通対策の推進
- (4) 安心安全の観光地マネジメントの推進(関連セミナーへの参加、情報提供等)

### 3. 観光人材の育成・確保

- (1) 協会職員の外部研修、セミナーへの受講や先進地視察等の実施、村民・事業所向けの観光人材育成の推進
- (2) ガイド育成の推進
- (3) 行政や事業所と連携したインバウンド対策の強化

### 4. 読谷観光の高付加価値化

- (1) 地域資源を生かした新たなコンテンツづくりと官民連携型の「読谷観光ブランド」の推進  
(読谷ブランド認定商品の発信やパワーアップキャラクター「よみとん」の活用・発信・開発・販売)  
(世界遺産座喜味城跡 御城印など新たなコンテンツを活かした観光振興への取組など)  
(残波岬灯台のオリジナルキャラクターの活用及び会員商品とのコラボ商品の活用・販売)
- (2) 新たな観光ニーズへの対応の促進(新しい技術の情報収集及び活用)
- (3) 観光客の満足度・消費額・長期滞在型観光プログラム、コンテンツ造成へ向けた取組  
(会員向け講習会・親睦会の開催によるスキルアップ及びネットワーク拡充、座談会など)
- (4) 地元の食材等を活用した食と土産品の品質向上、高付加価値化  
(読谷らしさ、読谷食材を活用した「よみマルシェ」の継続的な開催)
- (5) 読谷村の特色を生かしたテーマ別観光の推進
- (6) 平和教育、民泊、スポーツ交流等、読谷村ならではの教育旅行・観光交流の推進
- (7) 観光案内ガイドプログラム(観光地・戦跡・むら巡い)の企画や推進

## 5. マーケティング・情報発信の強化

- (1)観光統計の整備とデジタルマーケティングの推進（会員相互の情報共有、マッチングのサポート）
- (2)観光コンテンツ、魅力等の情報整備と共有（「読谷村の魅力」テーマやキーワードの洗い出し）
- (3)プロモーションの強化と効果的な情報発信の推進  
（HP・SNSによる読谷村の観光情報発信、会員に特化したオオトリマップの更新、発行、配布）
- (4)沖縄修学旅行フェア、物産展（新たなターゲット層への発信の強化）等の県外誘客への参加
- (5)ふるさと納税の推進および返礼品の造成検討

## 6. スポーツ・ビジネスツーリズムの展開

- (1)スポーツコンベンション促進事業の推進  
（キャンプ誘致活動、キャンプ歓迎受入・よみたん流おもてなし、こども達とのスポーツ交流（教室））
- (2)ホテル等への情報提供、体験・研修プログラムの構築

## 7. 観光振興の実現に向けた推進体制の強化

- (1)会員・行政・地域と連携した委員会活動の実施
- (2)会員加入活動、村民参加型の村観光振興の推進
- (3)会員同士の商品・サービスを掛け合わせた新たな商品の造成
- (4)村内各種団体（村、村商工会、農漁商工観光）や県・OCVBとの連携
- (5)地域のイベントの主催・後援・協力（読谷まつり・読谷やちむん市など）
- (6)地域振興協議会（地域振興センター）での活動・連携
- (7)DMO（DMCも含む）の情報収集等
- (8)土日祝日を含めた窓口営業の検討・実施